

# 日本経済新聞

3月27日

金曜日

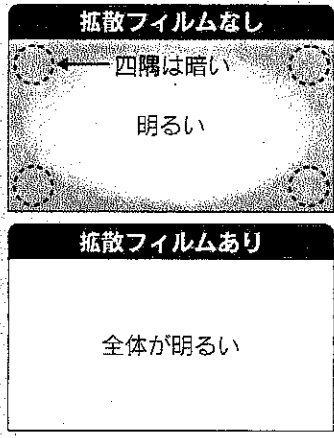
発行所 日本経済新聞社  
東京本社 ☎(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 ☎(06)6943-7111  
名古屋支社 ☎(052)243-3311  
西尾支社 ☎(092)473-3300  
札幌支社 ☎(011)281-3211

## 暗い場所でも写真鮮明

### ルクス・エナジー

照明器具メーカーのルクス・エナジー(新潟市、渡辺和利社長)は暗い場所でも鮮明な写真の撮影を可能にする発光ダイオード(LED)ライトを開発した。建設工事現場の監視用に大林組が購入を内定した。4月に約5千台納品する。耐震偽造や免震装置問題をきっかけに工事の品質管理に関する関心が高まると判断しており、国内外の建設会社などに拡販する。

新製品は拡散フィルムを使うことで全体を鮮明に撮影できる



### 撮影補助するLEDライト

## まず建設業界を開拓

に記録した図面を見ながら端末内蔵のライトで照らして撮るのが主流だ。ただ、被写体が鮮明に映るのは約2分先までに限られていた。新製品は10分先まで照

らすことができる。高性能のLEDチップ製造で知名度が高い米クリー社のLEDチップに加え、拡散フィルムを使うことで、一点ではなく全体を明るく照射できる。出力は3W。充電式で約2時間連続で点灯できる。約200gと軽量な点を生かし、iPad(アップル)などタブレットに取り付けられるよう

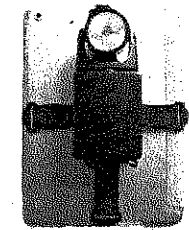
に、固定フックも用意している。大林組は全国の8支店の建設現場で利用していく方針だという。東日本大震災を機に、建物の耐震性や安心・安全に対する関心が高まり、ゼネコン各社は工事現場の管理を強化している。顧客の信頼を獲得する目的で、より鮮明な現場写真を撮影・保存する需要は増大する公算が大

きい。5月には東京の事務所営業人員を現在の2倍の6人に増やし、初年度で1万〜2万台の販売を目指す。将来は「欧米など先進国の建設現場向けや、家電量販店を通じて旅行用として一般消費者に販売していく」(渡辺社長)方針だ。量産する際には、中国の合併会社の工場で人員

を増やし、空いているラインを活用する計画だ。協力工場へも生産委託する予定だ。最大で月5万台の生産が可能になるという。ルクス・エナジーは2009年設立のベンチャー企業だ。持ち運びできる小型照明の製造・販売が中心で、14年6月期の売上高は4000万円。新潟県の中小企業は地

理的な問題もあり「技術力が高いにもかかわらず、首都圏の大手企業への販路がなく苦戦する企業が多い」(新潟県中小企業団体中央会)ことが共通の課題となっている。

ルクス・エナジーは今回の大林組との取引成立を契機に建設業界に製品を拡販し、16年6月期の売上高を1億円と2.5倍に増やすのが目標だ。



開発した「LEDライト・Smile Aim(スマイルエイム)」は夜間タブレットに取り付け鮮明な写真を撮影できる

やトンネル内でも工事や検査用の写真を鮮明に撮影できる補助器具だ。建設工事の様子を写真に撮る場合、現在はタブレット(多機能携帯端末)